

きゅうかごしまけいむしょせいもん

旧鹿児島刑務所正門

平成27年4月17日指定



■ 所在地 鹿児島市永吉1-30-1

■ 所有者 鹿児島市

■ 特徴

旧鹿児島刑務所正門は、明治41(1908)年に建てられました。明治の五大監獄(千葉・金沢・奈良・長崎・鹿児島)の中で、鹿児島刑務所だけが石造です。解体撤去された旧刑務所も石造でした。

鹿児島県出身で、当時、司法省営繕課長だった山下啓次郎が設計をしています。建築様式はネオゴシック様式で、正門は2階建て、左右の上方にバトルメントをもつ八角形の双塔があり、中央に大きなアーチの出入り口があります。

西洋中世の城門風の意匠は、我が国の建築では非常にめずらしいもので、刑務所の正門の性格をよくあらわしており、明治の建築の中でも際立った貴重なものです。